
俺様王子と魔物騒動！

土師 玲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺様王子と魔物騒動！

【Nコード】

N1365F

【作者名】

土師 玲

【あらすじ】

いたずら大好きで俺様なハルファリア王国の王子、ラトウルフェルクが、後に影武者となるルーヴィンと初対面した時の、ちょっとしたコメディストーリー。

第一章 出会いの思い出

第一章 出会いの思い出

壮麗で、優美なつくりの城は、ひどくにぎわっていた。かつらをかぶり、装飾品でかざりたて、布を無駄なくらいに使った衣装を着た貴族たちが、わんさと城内を行き来している。

笑いさざめきが時々起り、時々、楽しそうでひとときわ高い笑い声がひびく。

その夜も、定例どおりに、舞踏会が開かれていた。

王都にいる紳士淑女が集まり、情報を交換し合う。

今日は、国王の誕生日だ。

そんな人の波の中を、楽しそうに歩く少年が一人いた。

礼装は身につけているものの、比較的簡素で、動きやすい服装をしている。

すそのふくらんだ短いズボンなどをはいている人々を横目に、少年はくるぶしくらいまである長い貫頭衣をまもっていた。

が、それでもその少年はよく目立った。

夢見る乙女が望む姿そのものの白馬の王子さながらの容姿をしているせいだ。

金色の巻き毛に、大きな碧玉の瞳。

白い肌に、整った鼻筋。

その少年こそ、ハルファリア王国の第一王子そのひとだった。

名を、ラトウルフエルク・ニリム・ハルファリアという。

本人は至って気楽に、ラティって呼んでよと言っているが、まわりは困り果てていた。

そういえば、とラティはふと昔を思い出した。
実は去年、ラティは体を少し悪くして、別荘で療養していたことがあった。

その時に、今は当たり前のようにそばにいる少年と出会ったのだ。

そんなことを思い返していると、その少年、ルーヴィンが駆け寄ってきた。

「殿下、こんなところにおられたんですか。」

陛下がお呼びですよ」

「ああ、そうか。」

そう言えば、まだ祝いの言葉とか言っていないかったっけ。

まあ、もういい加減中年で、毛もより薄くなりつつある年を食ったというのをわざわざ祝われるのを悲しんできますか、とでも言っておようかな」

「またそんなことを」

ルーヴィンは呆れたように溜息をつくとき、ラティの腕をとり、引っ張った。

「ほらほら、とにかく行きますよ」

「ああ。」

なあ、ルーヴィン。去年のことを覚えているか？

僕はここにいないくて、お前はまだ貧乏な子供だったよな」

「ああ、そうですね」

ルーヴィンは、ラティを引っ張るのをやめ、立ち止まると、窓の外に広がる暗闇を見つめた。淡い微笑みが浮かぶ。

「あの時も、夜でしたよね」

「ああ」

ラティは頷いた。

脳裏に、昨年冬のことがよみがえってきた。

第一章 出会いの思い出（後書き）

軽く楽しめるコメディを目指しました。

よろしくお願いいたします。コメントをいただけると、励みになります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1365f/>

俺様王子と魔物騒動！

2010年10月14日23時20分発行